

併設のお好み焼き店と同時導入 運営の効率化に大きく貢献



▲店長太田義則氏

お好み焼き店を併設し、 幅広い客層から支持される

「サウンドアリーナ」(宮城県登米市)は1993年の開設以来、地域に密着した家族経営によるフレンドリーな店舗運営を行ない、地元住民に人気のカラオケボックスである。同店はお好み焼き店「じゅうじゅう」(1997年開設)を併設。2011年3月に発生した東日本大震災により両店舗とも甚大な被害を受け、大掛かりな改修を余儀なくされたが、家族の強い結束のもとに苦境を乗り越え、現在は順調に営業を行なっている。

カラオケのルーム数は12室。ルーム内では、お好み焼き店の鉄板焼き料理も提供するなど飲食メニューに注力。そのため、週末には小さい子どもからお年寄までファミリー客中心に幅広い利用がみられる。

飲食オーダーシステムの導入で 年末の繁忙期を乗り切る

両店舗で「スーパースターシリーズ」のPOSシステムと飲食オーダーシステムを同時に導入したのは、2014年11月20日。「スーパースターシリーズ」については、本誌を通じてかねてから関心をもって、12月の繁忙期の前に間に合わすべく、今回の導入となった。

「導入当初はほぼ毎日、使用方法についてスターランドさんに電話で問い合わせをしていました」と語る太田義則店長だが、「スーパースターシリーズ」の導入メリットとしてあげるのが業務の効率化だ。とくに大きな効果を発揮したのが、飲食オーダーシステム。

店舗レイアウトは、飲食の配膳などを考慮して厨房を建物中央に配し、その両サイドにカラオケ店とお好み焼き店を配置しているが、両店とも満席となる週末は手書きによるオーダーの際には料理を出す順番を間違え、「料理がまだ来ない」とクレームが寄せられることもあった。しかし、飲食オーダーシステムではオーダーを受けた時刻が印字されるため、そうした間違いはなくなり、料理の提供もスムーズになったという。また、宴会などのグループ利用においては、幹事がオーダーをまとめてから一度に注文をすることが多いが、オーダー端末があれば個別にオーダーができるため、店舗だけでなく、利用客もメリットを感じていると指摘する。

いま飲食業をはじめとする各業界で人材不足が深刻化している。登米市においてもその例外ではなく、人手の確保が困難な状況だ。一年で最も忙しく



▲「POSシステム」により業務が大幅に改善した



各ルームにPOP▶を置き、オーダー端末による注文を促す

なる12月は、風邪などでスタッフが休むことが予想される。太田店長は、「スーパースターシリーズを導入したので、万が一、スタッフに欠員が出ても、なんとか乗り切ることができると勇気づけられました」と話す。リスクマネジメントの観点からも、スーパースターシリーズの導入メリットは大きいのである。

奥さんと二人三脚で店を切り盛りする太田店長。「スーパースターシリーズ」のもつ機能を十分に使いこなし、さらなるサービスの向上につなげたい意向だ。



▲「サウンドアリーナ」と「じゅうじゅう」は
◀建物中央の厨房を挟んで営業する

「スーパースターシリーズ」 とは

(株)スターランドが開発・販売するPOSシステム「スーパースターシリーズ」は、カラオケボックスほか、複合カフェ、温浴施設、飲食店など各業界向けバージョンがラインナップされ、その導入施設から高い評価を受けている。

問い合わせ

(株)スターランド
〒426-0037
静岡県藤枝市青木3-14-1

0120-007-009
FAX▶054-644-5034
URL▶<http://www.starland.co.jp>